

5. 角田山・多宝山における個別の課題と方向性

現地の状況や、関係者へのヒアリングから、角田山・多宝山に関する課題及び、方向性を整理します。

1) 整備・保全に対する方向性

テーマ	現状・課題	方向性	今後の検討事項 (具体的な対応策については次年度以降の実施計画で行なう)
整備・登山道 ・山頂・登山道の ・管理の考え方	<p>【山頂】</p> <ul style="list-style-type: none"> 角田山は利用者が多く、特に山頂はピーク時に休む場所がないほどである。 過剰利用により芝なども後退している。 公園利用的な場所という意識の人も多く、外から持ち込んだ植物を植えている。 <p>【登山道】</p> <ul style="list-style-type: none"> 登山道の補修については、それを発見した団体等が西蒲区へ連絡し、応急処置を図ることが多い。 活動団体は多いが、各団体の分担が定まっていない。 緊急対応で処置した箇所などは、すぐに荒れたり、逆に危険になる箇所もある。 <p>【登山道ではないが利用されている山道】</p> <ul style="list-style-type: none"> 桜尾根コース、宮前コースなどは自然公園の利用計画に上がっていないが認知度も高く、登山者も多い。 各団体から、危険箇所について補修したいという要望あり。 角田山と多宝山を結ぶ山道は、国定公園の利用計画に位置付けられた登山道である。ただし、現在は登山道としては未整備である。 	<p>【山頂】</p> <ul style="list-style-type: none"> 角田山山頂は、国定公園の「園地」として位置付けられているため、「眺望や自然観察を楽しむ場」として捉え、基本的には「利用しやすさ」を優先させて整備する。 できる限り在来植生を活用した整備とする。 整備・補修については、関係者で容易に管理できるもの、管理手間のかからないものとする。 オーバーユースの実態をふまえた整備を検討する。 <p>【登山道】</p> <ul style="list-style-type: none"> 登山道以外の場所への踏み出しを抑制するため、基本的には「利用しやすさ」「安全性」を踏まえた整備とする。 整備・補修については、関係者で容易に管理できるもの、管理手間のかからないものに統一する。(補修ガイドラインの整備等) <p>【登山道ではないが利用されている山道】</p> <ul style="list-style-type: none"> 将来的には登山道として整備していくことを目指す。しかし、現段階においては所有者の合意形成が先決であるため、登山道としての位置付けはできない。 当面は、「登山道ではないこと」を看板などで登山者に知らせる。 	<p>山頂の整備手法について</p> <p>休憩場所（三望平など）の整備手法について</p> <p>登山道の整備手法について</p> <p>桜尾根コースの活用について</p> <p>宮前コースの活用について</p> <p>角田・多宝縦走コースの活用について</p>
動植物の ・保全の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 盗掘は減少しているが今なお被害がある。 インターネットなどによる情報流出から、自生の雪割草などが盗掘の恐れあり。 山野草保護の方策を検討するとともに、植栽の際の在来種と外来種の扱いについて検討が必要。 周辺には地元の保全活動によりホタルの生息環境が保たれている場所がいくつかみられる。 近年、沢の水量減少・樹木の生長の変化など、水環境の変化がみられている。 工事用道路の整備に伴う、貴重な動植物の損傷がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 植物観察などのため、登山道周辺から林の奥へ登山者が立ち入らないように、登山道沿道の植生を育てていく。 気軽に雪割草が楽しめるよう、登山道登り口への植栽は、専門家を交えて検討しながら、継続していく。 植栽においては、角田山・多宝山から採取・育成したものを使用する方向とする。 小中学校の登山学習などで、動植物などの大切さを伝える。 森林の保全を通じて川や沢など水環境の保全を図り、ホタルや魚類などの保全活動との連携を行う。 工事の計画段階における、動植物の専門家との協議の場を設けるよう努める。 	<p>雪割草の植栽のルール・ゾーン区分について</p> <p>保護監視活動の強化</p> <p>施設整備に伴う環境などへの影響の検討</p>

2) 仕組み・体制に対する方向性

テーマ	現状・課題	方向性	今後の検討事項 (具体的な対応策については次年度以降の実施計画で行なう)
保守管理の体制について	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は、管理区分、各団体の役割が不明確である。 ・整備や補修の方向性について調整のないまま、各団体が任意で手を入れているため、無駄になる活動もある。 ・土砂流出などにより損傷した登山道の修復などはボランティア団体だけでは対処できないものがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・団体間で理念を共有し、連絡調整を図る。 ・ボランティア団体や地元集落のほか、林業・農業・観光の関係者も関わる体制とする。 ・保全・管理・活用に関する意見交換や情報共有を図る。 ・登山道の損傷を発見した際の連絡体制をつくるなど、速やかな修復対応ができるよう努める。 	<p>保守管理活動における理念・方向性の統一</p> <p>様々な分野と連携した体制づくり</p> <p>保守・管理に関する役割分担・活動範囲の明確化</p> <p>保守・管理における連絡体制の整備</p>
(林業・農業・漁業・観光など) 産業との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・かつては、地元の人が管理しながら生活の糧としていた。 ・地域還元としての観光活用の検討が必要。 ・国上山～弥彦山～多宝山～角田山を一体的に考える必要がある。 ・かつては95%が生産林であり、管理などは全国的評価も高かった。 ・現在は、ほとんどの土地所有者が手入れをせず、土地境界も分からない。 ・福井や石瀬に意欲的に管理する人が数人いる。 ・地産材活用の動きもみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保全や保守管理などの活動を行なう上では活動資金が必要であるため、有償ガイドなどの仕組みを検討する。 ・産業を持続する上では人材が必要であるため、林業体験・農業体験のような地域外からの人材受け入れを検討する。 ・地元産材の普及促進、育林技術の継承などの仕組みを検討する。 ・麓の農産物、地酒など特産品について、角田山多宝山の「自然豊かな」イメージ発信とからめて発信し、相乗効果を図る。 ・周辺の産業資源との連携を図る。 ・登山者の受け入れ体制の充実を図る。 	<p>新たな里山的利用について</p> <p>林業体験など観光活用の検討</p> <p>地元産材利用の普及の仕組みづくり</p> <p>来訪者と地元の交流イベントの推進</p> <p>登山・観光ガイドの育成</p> <p>角田山・多宝山・弥彦山・国上山との一体的な連携の検討</p> <p>北国街道など他の観光資源との連携の検討</p> <p>漁業や農業などの産業資源との連携の検討</p> <p>シャトルバスの導入など登山者に配慮した周辺環境整備</p>
利用の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・地元集落から、登山客に対する不満の声は少ない。 ・ただし、一部で不法侵入や盗掘を行なう者がいる。 ・林道周辺へのゴミの不法投棄がみられ、地元処理の負担が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重な自然環境を保全するため、盗掘や登山道以外への踏み出し防止に関する情報発信をする。 ・ごみの不法投棄を抑制する対策を検討する。 	<p>利用者やボランティア団体による利用のルールづくり</p> <p>利用者のマナー向上に向けた啓発</p> <p>土地所有者との協議を踏まえた監視や立ち入り規制の仕組みづくり</p> <p>ゴミの不法投棄などが地域産業・自然環境に及ぼす悪影響の情報発信</p>